

## 初心運転者の運転意識と実態に関する調査研究（Ⅱ）（平成3年度）

全事故の約12%前後、死亡事故の14%前後が全運転者の6%程度の初心運転者によって起こされている。そこで、平成2年度から3カ年計画で初心運転者の運転意識・態度、運転実態など、車と車社会とのかかわりあいと免許取得後の経過年数と事故・違反について具体的に明らかにし、今後の初心運転者に対する交通安全教育の基礎資料とすることを目的として、交通事故統計分析、アンケート調査等を行った。

① 平成3年中の初心者運転による死亡事故のうち、90.5%が16～24歳の若年層によるものである。若年者の中で、免許経過年数1年未満の運転者の事故の発生件数が最も多く、若年者全体の30%を占めている。若年者全体で見ると約65%が夜間に発生し、その中で初心運転者の事故は夜間が60.9%、昼間が39.1%となっている。夜間事故の比率は、免許取得後の経過年数に比例して高くなる傾向を示している。初心運転者の場合、カーブでの事故が多いという特徴が見られ、初心運転者と2年未満の運転者の事故の27%はカーブ地点で発生している。初心運転者は単独事故が多く、36.8%を占め、2年未満も35.4%と高い。初心運転者による死亡事故を法令違反別に見ると、最高速度違反(43.2%)、信号無視(6.1%)、一時不停止(3.4%)、運転操作不適(5.6%)等の比率が3年以上の運転者に比べて高い。

② 初心運転者には判断・意志決定の迷いが多く、運転操作のミスも免許更新者に比べて多い

(図)。また、狭い道での運転やバックに関しては不得意であるとの自己評価が多い。女性の初心運転者の自分自身の評価では、夜や雨の日の運転、高速道路での走行など通常の運転については免許更新者よりも問題なくできるとしている傾向がみられる。

③ 初心運転者には運転を生きがいと考えたり、運転自体が楽しいと感じたりする傾向が強い。

また、初心運転者は免許更新者に比べて攻撃的な運転が多く、遵法性や歩行者保護意識も免許更新者に比べて高いとはいえない。さらに初心運転者は依存的傾向も強い。

④ 初心運転者の情報収集ミスは比較的少ない。

ただし、初心運転者でも情報収集ミスが多いドライバーほど事故違反が多い傾向に変わりはない。初心運転者は無理な状況で運転をしているため、一旦情報収集ミスがあると事故や違反に結びつく可能性が高いとみられる。

図 性・経験年数別因子得点分析  
(縦軸 1 因子 \* 横軸 2 因子)

